

児童・生徒の現状・課題

- ・素直で与えられた課題に対しては、意欲的に学ぶ児童が多い。
- ・自分の考えを発信する際に自信がもてない。自分の意見の発表などに消極的な面がある。
- ・難しい課題に向かうと、最後まで取り組むことができず諦める様子が見られる。

学び続ける力を育むための重点目標

課題を自分事としてとらえ、常に他者の考え方や解決方法と比較・検討することで、自らの学びを広げたり深めたりすることができる。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	84.3 69.4	90	
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど振り返ることができる。	81.9 74.5	85	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	68	75	
②授業では児童が選択した学びを、相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している	80	85	

具体的な手だて①【見通す】

学習のめあて(全体)が明らかになった時点で、課題の解決方法や取り組み方について、自分の見通しを言語化(発言・記述)させる。

具体的な手だて②【見直す】

それぞれの解決方法や取り組み方について、情報交換をする場を設け、お互いに質問、良い点、改善点をコメントし合う場面を設定する。この段階で、学び(内容・方法)の変容について表現する場面を設ける。

具体的な手だて③【振り返る】

個々に変容する場面を計画的に授業に盛り込み、教師の反応、声掛けによって学びの変容を価値付けする。終末に限らず、随時振り返りを行う。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。
- ・職員室後方掲示板や図書コーナーを活用し、授業の工夫や手立ての共有を図る。

総括(8月) 全国学力学習状況調査の結果を見ると、無回答の割合がやや多く、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い傾向があることが分かった。そこで、計画を立てて学習する力、最後まで粘り強く取り組み自分の学びを振り返る力を伸ばしていきたいと考えた。日常の授業において、児童が自分の見通しや考えをもつこと、それを交流させるような活動(授業)の工夫をすること、振り返る場面などで自分の達成度を確認し、自信をもって活動できるようなフィードバックをすることに取り組んでいきたい。

総括(1月)